

2022 年度事業報告

1. 会議、広報活動および会員数

(1) 会議の開催状況

(a) 評議員会

開催年月日	会議の内容
第一回 (定時) 6月18日	(1) 2021 年度事業報告について (2) 2021 年度計算書類 (2021 年度計算書類、附属書類〔計算書類関係]) について (3) 理事および監事の選任について
第二回 (臨時) 3月26日	(1) 2023 年度事業計画について (2) 2023 年度収支予算書について

(b) 理事会

開催年月日	会議の内容
第一回 (通常) 6月4日	(1) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 2021 年度事業報告 (案) について (3) 2021 年度計算書類報告について (4) 2022 年期定時評議員会開催について (5) 新入会員の承認
第二回 (臨時) 6月18日	(1) 新理事長・副理事長・常任理事の選定 (2) 委員会新主任・新副主任の選任 (3) 事務局に関する提案
第三回 (通常) 8月20日	(1) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 2022 年度学会奨励賞受賞者の決定について (3) 事務局スタッフ退職と採用について (4) 新入会員の承認

第四回 (通常) 10月28日	(1) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 理事会を主任が欠席する場合について (3) 新入会員の承認
第五回 (通常) 12月17日	(1) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 新入会員の承認
第六回 (通常) 3月11日	(1) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 2022年度事業計画書及び収支予算書について (3) 2022年期臨時評議員会開催について (4) 新入会員の承認 (5) 会費滞納会員一覧

(c) 総会

10月29日、仙台国際センターにて会員総会を開催した。

(2) 各種広報活動の状況

実施月	実施内容	対象者	発行形態
5月10日	Newsletter 171号刊行	会員	学会ウェブサイト公開
9月1日	Newsletter 172号刊行	会員	
11月19日	Newsletter 173号刊行	会員	
2月24日	Newsletter 174号刊行	会員	

①Newsletter は学会ウェブサイトで開催している。

(<http://jair.or.jp/publication/nl.html>)

②Newsletter の目的は、評議員会・理事会・各種委員会・分科会・事務局の活動の現況と今後の方針について情報を発信するとともに、会員からの声を反映し、会員相互の情報交換を促進することにある。

③学会ウェブサイトを通じた情報発信も継続・拡充し、今期は刊行物の案内10件、理事会・委員会からの連絡17件、研究大会の関連情報27件、シンポジウム等の案内や公募情報100件、合計154件の発信を行った。

④会員に対する情報提供のサービスとしてメーリングリストを活用した情報提供を実施し、Newsletter の刊行や研究大会の報告者募集および学会誌への投稿募集などについて連絡を行った。

(3) 会員数の状況

2022年度新入会員 92名

2022 年度退会会員 91 名

種別	人数
維持会員	0 名
一般会員	1,652 名
学生会員	153 名
シニア A 会員	86 名
シニア B 会員	85 名
家族会員	38 名
計	2,014 名

2023 年 3 月 31 日現在

2. 事業の成果

(1) 継 1. 機関誌・書籍発行事業

1. 和文機関誌『国際政治』208号「SDGs とグローバル・ガバナンス」、209号「冷戦と日本外交」、210号「岐路に立つアメリカ」をそれぞれ刊行した。レフェリーによる厳正な審査を行うことによって、高い学術研究水準を確保しつつ、独立論文を各号に掲載した。

2. 研究成果の公開を一段と進めるため、独立行政法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルの無料公開システム (J-STAGE) を活用して、すでに 210号まで掲載されている『国際政治』のバックナンバーを今期は 204号まで無料公開した。

3. 英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific (IRAP)* については、Vol.22, No.2、同 No.3、Vol.23, No.1 の計 3冊を電子ジャーナルにて発行した。投稿論文の掲載可否を判断するにあたっては、国際的なレフェリー陣による厳正な審査を行い、国際的学術交流の最前線として高い水準を維持した。

4. IRAP のインパクト・ファクターは 2016 年度には 0.676 であったが、2020 年度には 1.406 に上がり、最新版の 2022 年度には 2.545 にさらに上がっている。

(2) 継 2. 研究会・講演会事業

1. 10月28日～10月30日に仙台国際センターにて3年ぶりに対面形式（一部ハイブリッド形式）による研究大会を開催した。大会参加者は、3日間で656名を数えた。通常部会13、市民公開講座を兼ねた部会1、日韓合同部会1、分科会32の企画を実施した。

2. 研究大会における部会、分科会プログラムは添付資料の通りである。

(3) 継 3. 国際学術交流事業

1. 海外における研究成果発表や研究交流を促すため、国際会議に参加する会員に対してその渡航費などの支援を行う国際学術交流助成制度を今年度も継続し、Sixth WISC Global International Studies への参加者 1 名、International Studies Association (ISA) 研究大会への参加者 2 名に対し助成を行った。

2. KAIS (韓国国際政治学会) との交流を行なった。日本国際政治学会から 3 名を 12 月 2 日～3 日の KAIS 研究大会に派遣し、3 日には飯田理事長が総会で挨拶をした。また、日本国際政治学会の研究大会 (10 月 29 日) では、日韓合同部会 “Economic Security: Japan and South Korea” を開催し、KAIS (韓国国際政治学会) から 3 名、アメリカから 1 名、日本国際政治学会から 2 名が報告者・討論者・司会者として参加した。

3. 研究大会では、日韓合同部会の開催について江草基金より国際研究集会開催助成を受けた。

4. International Studies Association、WISC (World International Studies Committee) など海外諸学会の動向や学術情報を会員に伝えて会員の国際学術会議への参加を促し、諸地域・諸外国との学術交流のネットワーク構築に取り組んだ。

(4) 他 1. 研究活動奨励事業

2022 年度の第 15 回学会奨励賞を、大澤傑会員の「ニカラグアにおける個人化への過程—内政・国際関係／短期・長期的要因分析」(『国際政治』第 207 号) と藤田吾郎会員の「『芦田書簡』の再検討—有事駐留構想と警察改革の連関を中心に」(『国際政治』第 207 号) に授与した。本賞は 2008 年度に創設されたものであり、前年度の和文機関誌『国際政治』および英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific* の執筆者のうち、40 歳以下の若手会員を対象とした学会賞で、学会奨励賞選考委員会が選考を行う。

また、大澤会員・藤田会員による論文英訳に対して助成を行った。

3. その他重要な事項

昨年度より開始された院生・若手研究者に対する国内旅費助成は、コロナ禍の昨年度は応募があったものの、研究大会のオンライン開催に伴い申請取消となったが、今回は研究大会が対面開催となり、8 名への助成を行なった。

4. 庶務の概要

(1) 役員等に関する事項

2022 年度役員名簿（アイウエオ順）

理事長 副理事長 理事	飯田 敬輔 遠藤 貢 池内 恵 井上 正也 大島 美穂 楠 綾子 倉科 一希 鈴木 基史 都留 康子 宮城 大蔵 和田 洋典	東京大学教授 東京大学教授 東京大学教授 慶應義塾大学教授 津田塾大学教授 国際日本文化研究センター教授 同志社大学教授 京都大学教授 上智大学教授 上智大学教授 青山学院大学教授
監事	磯崎 典世 山田 敦	学習院大学教授 一橋大学教授

評議員	赤木 完爾 石田 淳 遠藤 誠治 大芝 亮 太田 宏 吉川 元 國分 良成 古城（久具）佳子 酒井 啓子 佐々木 卓也 田所 昌幸 中西 寛	慶應義塾大学名誉教授 東京大学教授 成蹊大学教授 広島平和研究所所長 早稲田大学教授 広島市立大学教授 慶応義塾大学名誉教授 青山学院大学教授 千葉大学教授 立教大学教授 国際大学教授 京都大学教授
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第 1 日 10 月 28 日 (金) 13:00~15:30

午後の部会 (13:00~15:30)

部会 1 「日本外交における『価値』の再検討」

司会 井上 寿一 (学習院大学)

報告 奈良岡 聡智 (京都大学)

「近代日本における『理念的外交』——第一次世界大戦期を中心に」

楠 綾子 (国際日本文化研究センター)

「戦後日本外交と『価値』——吉田路線をめぐって」

長 有紀枝 (立教大学)

「人間の安全保障と日本外交における『価値』の再検討」

討論 中西 寛 (京都大学)

佐々木 雄一 (明治学院大学)

部会 2 「GAF A をめぐる国際政治経済学」

司会 古城 佳子 (青山学院大学)

報告 吉沢 晃 (関西大学)

「EU の競争政策とデジタル・プラットフォーム事業者規制」

須田 祐子 (東京外国語大学)

「デジタル時代の『規制の政治』とデータプライバシー」

津田 久美子 (北海学園大学)

「デジタル課税の歴史的合意——意義と課題」

討論 遠藤 乾 (東京大学)

西村 もも子 (東京女子大学)

部会 3 「国際政治史は刷新されるのか——接近法を問いなおす」

司会 柴山 太 (関西学院大学)

報告 佐藤 尚平 (早稲田大学)

「脱植民地化と史料の移管・破棄・隠匿——日英両帝国の比較に向けて」

益田 肇 (シンガポール国立大学)

「冷戦世界を考えなおす——社会戦争の時代」

高橋 和宏 (法政大学)

『日米半導体交渉』再考」

討論 後藤 春美 (東京大学)
阿南 友亮 (東北大学)

部会4 **From Voluntarism to Obligation: The Rise of Formal Institutions in the Asia-Pacific**
(英語で実施)

Chair: SUZUKI Motoshi (Kyoto University)

Speakers:

HOSHIRO Hiroyuki (University of Tokyo)

“Aid Coordination through Competition?: China and Japan in Pursuit of Economic Infrastructure Projects”

UJI Azusa (Kyoto University)

“Overcoming Political Competition in Environmental Cooperation”

GRIMES William (Boston University)

“Financial Cooperation in the Asia-Pacific as Regime Complex: Explaining Patterns of Coverage, Membership, and Rules”

HOLLIFIELD James (Southern Methodist University)

“Migration Interdependence in East and Southeast Asia”

Discussant:

MIDFORD Paul (Meiji Gakuin University)

部会5 「宗教要因とリベラル秩序の動揺」

司会 見市 建 (早稲田大学)

報告 高光 佳絵 (千葉大学)

「戦間期における YMCA ネットワークと米国中心のアジア・太平洋秩序形成」

星野 昌裕 (南山大学)

「中国の民族・宗教政策とリベラル秩序の変容」

坂梨 祥 (中東研究センター)

「イランの宗教体制とリベラル秩序——異議申し立てと正当性」

討論 山崎 望 (駒沢大学)

横田 貴之 (明治大学)

分科会セッションA (15:45~17:45) 別掲

第2日 10月29日(土) 9:30~12:00, 16:15~19:05 (共通論題)

午前の部会 (9:30~12:00)

部会6 「政治と音楽——国際関係を動かす対抗文化」

司会 細田 晴子（日本大学）

報告 松本 佐保（日本大学）

「イギリスの脱植民地化とロック、パンク、レゲエ音楽」

福田 宏（成城大学）

「『正常化』期のチェコスロヴァキアにおける『脱イデオロギー化』とロック音楽の持つ政治的位相の変容」

高田 馨里（大妻女子大学）

「文化戦争から対テロ戦争へ——Rap/Hip Hop の軍事化を問う」

討論 半澤 朝彦（明治学院大学）

松尾 秀哉（龍谷大学）

部会7 「同盟からネットワークへ——安全保障協力の新潮流」

司会 森 聡（慶應義塾大学）

報告 神保 謙（慶應義塾大学）

「インド太平洋地域における安全保障協力の構図」

山口 信治（防衛研究所）

「中国のパートナーシップ外交」

溜 和敏（中京大学）

「死語としての非同盟——現代インドの安全保障協力概念」

討論 庄司 智孝（防衛研究所）

福田 潤一（笹川平和財団）

部会8 日韓合同部会 “Economic Security: Japan and South Korea” 【英語で実施】

Chair: IIDA Keisuke (University of Tokyo)

Speakers:

SUGINOHARA Masako (Ferris University)

“Economic Security: The Case of Japan”

LEE Seungjoo (Chung-Ang University)

“US-China Strategic Competition and the Evolution of Korea’s Economic Statecraft”

LEE Wanhwi (Ajou University)

“Economic Security in Korea: Issues and Implications”

Discussants:

SOHN Yul (Yonsei University)

VEKASI Kristin (University of Maine)

LEE Junghwan (Seoul National University)

部会 9 「政治体制・内政と外交とのリンケージ」

* 非登壇共著者

司会 松本 はる香 (アジア経済研究所)

報告 井上 一郎 (関西学院大学)

「官僚制と習近平時代の中国対外政策決定」

仙石 学 (北海道大学)

「中東欧諸国の政党政治とウクライナ」

浜中 新吾 (龍谷大学)、原田 有一朗* (龍谷大学)

「分離壁の旗下集結効果——ミクロ的基礎を求めて」

討論 多湖 淳 (早稲田大学)

村上 勇介 (京都大学)

部会 10 「自由論題——国際政治学の最前線」

司会 小窪 千早 (静岡県立大学)

報告 藤川 健太郎 (名古屋大学)

“Building Peace after Self-determination and Partition: Faulty Assumptions?”

ボホロディチ・ベアタ (アダム・ミツキエビッチ大学)

「日米同盟に関する安全保障のコンセンサス——安全保障政策策定におけるシンクタンクと『同盟マネージャー』の役割」

稲永 祐介 (龍谷大学)

「環境危機へのアラート——生物多様性の保全をめぐるフランス政治」

討論 千々和 泰明 (防衛研究所)

窪田 悠一 (日本大学)

分科会セッション B (12:15~13:45) 別掲

分科会セッション C (14:00~15:30) 別掲

総会 (15:45~16:05)

Greetings: KIM Sangbae (President of KAIS, Seoul National University)

【共通論題】「国際規範の衰退とグローバルガバナンスの停滞」(16:15~19:05)

司会 田所 昌幸 (国際大学)

報告 西崎 文子 (東京大学)

「『力の驕り』再考——冷戦後国際秩序とアメリカ」

廣瀬 陽子 (慶應義塾大学)

「力による現状変更——ロシアの論理にどう対抗するか」

高柳 彰夫 (フェリス女学院大学)

「COVID-19・ウクライナ危機時代の SDGs と国際開発協力のガバナンス」

討論 篠田 英朗 (東京外国語大学)
西谷 真規子 (神戸大学)

第3日 10月30日(日) 14:00~16:30

分科会セッションD (9:30~11:00) 別掲

分科会セッションE (11:15~12:55) 別掲

午後の部会 (14:00~16:30)

部会11 「米ソ冷戦の終焉と東アジア」

司会 李 鍾元 (早稲田大学)

報告 金 成浩 (琉球大学)

「東アジア冷戦構造の変容と継続——北朝鮮核問題との関連性を中心として」

三宅 康之 (関西学院大学)

「中国と米ソ冷戦終焉——パリア国家から世界の工場へ」

若月 秀和 (北海学園大学)

「冷戦の終焉と日本の東アジア外交」

討論 江藤 名保子 (学習院大学)

富樫 あゆみ (東洋英和女学院大学)

部会12 「グローバル・マイグレーション——主体・規範・実践の変容と再編」

司会 石井 由香 (静岡県立大学)

報告 飯笹 佐代子 (青山学院大学)

「マヌス島からの抵抗——オーストラリアの国外難民収容政策と収容されたアーティストらの抗議活動」

杉木 明子 (慶應義塾大学)

「国際難民保護レジームの変容とレジリエンス——ノン・ルフールマン原則と難民の非自発的帰還」

堀井 里子 (国際教養大学)

「欧州における難民の『自立』支援の批判的検討——非国家主体によるトランスナショナルな実践」

討論 土谷 岳史 (高崎経済大学)

中坂 恵美子 (中央大学)

部会13 「核兵器をめぐる国際政治の現在」

司会 秋山 信将 (一橋大学)

報告 川崎 哲 (ピースボート)

「核兵器禁止条約の意義と展望」

鶴岡 路人 (慶應義塾大学)
「ポスト INF 条約の課題」
向 和歌奈 (亜細亜大学)
「核軍縮における先制不使用の効用と限界」
討論 石田 淳 (東京大学)
栗田 真広 (防衛研究所)

部会 14 「ウクライナ・ロシア問題の多角的考察」(市民講座を兼ねる)

司会 宇山 智彦 (北海道大学)
報告 大串 敦 (慶應義塾大学)
「脆弱な中央・強靱な地方—独立後ウクライナの政治構造」
松寄 英也 (津田塾大学)
「冷戦終焉とウクライナの秩序観—主権擁護の構想の歴史的変遷」
立石 洋子 (同志社大学)
「ロシアのアイデンティティと歴史—ウクライナとの関係の観点から」
討論 浜 由樹子 (静岡県立大学)
熊倉 潤 (法政大学)

部会 15 「研究・教育を取り巻く環境と課題—ライフワークバランス・ジェンダー・キャリアについての考察(ラウンドテーブル方式)」

司会 畠山 京子 (新潟県立大学)
報告 礪波 亜希 (筑波大学)
「女性研究者の研究・教育環境と課題—『帰還者』としての経験から」
松岡 美里 (帝京大学)
「加速する社会における研究・教育環境と課題—若手女性研究者の視点から」
堀江 正伸 (青山学院大学)
「大学での研究・教育における『実務家教員』の役割と課題」

分科会プログラム

◆10月28日(金)

分科会セッションA (15:45~17:45)

A-1 アメリカ政治外交分科会 責任者 水本 義彦 (獨協大学)

テーマ 自由論題

司会 水本 義彦 (獨協大学)

報告 加藤 智裕 (一橋大学)

「ケネディ、ジョンソン政権期のインド・パキスタン政策—インド洋政策との連関、1962-66」

- 瀬川 高央 (北海道大学)
「カーター政権期における SALTIIの国内的位置づけの変化——軍備管理の追求から安全保障の手段へ」
- 隋 立国 (一橋大学)
「1993年クリントン政権の対中人権政策——12850号大統領命令の決定過程」
- 討論 小野沢 透 (京都大学)
竹本 周平 (国際教養大学)
島村 直幸 (杏林大学)
- A-2 欧州国際政治史・欧州研究分科会 I** 責任者 小川 浩之 (東京大学)
- テーマ 1970年代ヨーロッパの政治史とジェンダー／フェミニズム
- 司会 上原 良子 (フェリス女学院大学)
- 報告 八十田 博人 (共立女子大学)
「1970年代のイタリア・フェミニズム運動の政治史的位置」
- 網谷 龍介 (津田塾大学)
「1970年代ヨーロッパにおける男女平等言説の相互作用と分岐——ECと西ドイツの事例から」
- 討論 小川 有美 (立教大学)
- A-3 国際交流分科会 I** 責任者 加藤 恵美 (帝京大学)
- テーマ 文化外交官柳澤健の学際的研究 戦前・戦中・戦後日本の国際交流ネットワーク形成
- 司会 芝崎 厚士 (駒澤大学)
- 報告 中村 信之 (神田外国語大学)
「柳澤健と『国際文化事業』」
- 瀧井 一博 (国際日本文化研究センター)
「教養主義者の外交観——柳澤健の場合」
- 林 洋子 (文化庁)
「画家・藤田嗣治と外交官・柳澤健の1920年代から40年代の協働を考える」
- 討論 武田 知己 (大東文化大学)
芝崎 厚士 (駒澤大学)
- A-4 院生・若手研究分科会 I** 責任者 細川 真由 (京都大学)
- テーマ 欧州統合研究の最前線——行政・政党・金融の視点から
- 司会 南波 慧 (一橋大学)
- 報告 福田 智洋 (早稲田大学)
「国際機構による実施の外部委託とその諸課題——EU エージェンシーの行政学的存立意義」
- 富田 健司 (九州大学)

『ヨーロッパの守り手』？——欧州懐疑急進右派ポピュリストの『汎ヨーロッパ』的連携とその理念」

龍花 務（早稲田大学）

「英国の対欧州経済通貨同盟政策における変容——『分離する需要』による影響の考察」

討論 原田 徹（佛教大学）

山本 直（日本大学）

池本 大輔（明治学院大学）

A-5 ジェンダー分科会 責任者 古沢 希代子（東京女子大学）

テーマ 社会変革とジェンダー・ポリティックス

司会 古沢 希代子（東京女子大学）

報告 松野 明久（大阪大学）

「インドネシア 1965 年虐殺と反フェミニズム・プロパガンダ——冷戦期反共言説との関係を問う」

大形 里美（九州国際大学）

「インドネシアにおけるジェンダーに関するイスラム法学のあり方と国内・国際政治」

雑賀 葉子（桜美林大学）

「紛争後復興期のジェンダー・クォータ——東ティモール女性のネットワーク化」

湯浅 拓也（大阪産業大学）

「近代日本外交における女性平和運動——河井道の YWCA での実践とそれを支えた思想」

討論 増原 綾子（亜細亜大学）

中川 香須美（パンニャサストラ大学）

◆10月29日（土）

分科会セッションB（12:15～13:45）

B-1 日本外交史 I / 東アジア国際政治史 I 合同分科会 責任者 中島 琢磨（九州大学）
五十嵐 隆幸（防衛大学校）

テーマ 人種・国籍をめぐる東アジア国際政治史

司会 家永 真幸（東京女子大学）

報告 西村 英之（中央大学）

「日米人種・移民問題における日本移民協会の活動と役割」

江 子正（京都大学）

「パリ講和会議における人種平等提案と中国」

景 旻（東京大学）

「中華人民共和国成立初期における国籍政策——『中国人』の認定をめぐる諸問題」

討論 酒井 一臣（東京女子大学）

鶴園 裕基（香川大学）

- B-2 政策決定分科会** 責任者 齊藤 孝祐（上智大学）
 テーマ エコノミックステイトクラフトをめぐる政策形成
 司会 齊藤 孝祐（上智大学）
 報告 上砂 考廣（ケンブリッジ大学）
 「東アジアのエコノミックステイトクラフト——その開発国家的起源と変容」
 川井 大介（日本国際問題研究所）
 「米中の技術競争と標準化をめぐる問題」
 討論 松本 栄子（拓殖大学）
 土屋 貴裕（京都先端科学大学）
- B-3 院生・若手研究分科会Ⅱ** 責任者 細川 真由（京都大学）
 テーマ 個人文書がひらく国際関係史研究——第二次世界大戦直前期を題材に
 司会 藤山 一樹（大阪大学）
 報告 陳 春松（京都大学）
 「蒋介石の日ソ戦争の誘発に関わる努力 1937-1939」
 水野 良哉（ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス）
 「『集団安全保障』と『平和的変革』の調和を目指して——一九三〇年代中葉におけるアー
 ノルド・J・トインビーの国際情勢分析を中心に」
 討論 段 瑞聡（慶應義塾大学）
 奥田 泰広（愛知県立大学）
- B-4 ロシア・東欧分科会Ⅰ** 責任者 長谷川 雄之（防衛研究所）
 テーマ 1990年代以降の欧州国際政治における秩序変容
 司会 吉川 元（広島市立大学）
 報告 加藤 美保子（広島市立大学）
 「冷戦後ロシアの多国間外交から見る欧州の分断」
 玉井 雅隆（東北公益文科大学）
 「『ウィーンの東』と『ウィーンの西』——OSCEにおける『分断』とその対応」
 討論 坪内 淳（聖心女子大学）
 宮脇 昇（立命館大学）
- B-5 環境分科会** 責任者 高橋 若菜（宇都宮大学）
 テーマ 捕鯨と気候変動問題が示す環境ガバナンスの歴史と未来
 司会 石井 敦（東北大学）
 報告 佐藤 勉（国際協力銀行／名古屋大学）
 「国際気候ガバナンスと近時の金融部門の動向」
 長 史隆（立教大学）

「クジラとイルカをめぐる日米関係——捕鯨とイルカ捕殺への米国の批判に対する日本の
反応を中心に 1970-1982年」

討論 亀山 康子（東京大学）
阪口 功（学習院大学）

B-6 国際交流分科会Ⅱ 責任者 加藤 恵美（帝京大学）

テーマ 自由論題

司会 加藤 恵美（帝京大学）

報告 坂口 可奈（北海商科大学）

「リー・シェンロン期シンガポールの国家ブランディング戦略——観光資源開発を中心に」
張 雪斌（大阪経済法科大学）

「一帯一路構想における文化交流——その戦略、アクターとプロセス」

討論 李 孝連（東洋学園大学）
上村 威（明治大学）

B-7 中東分科会 責任者 溝渕 正季（広島大学）

テーマ Exploring the New Regional Dynamics of the Middle East（英語で実施）

司会 溝渕 正季（広島大学）

報告 山尾 大（九州大学）、末近 浩太（立命館大学）

「『アラブの春』以降の対イラン脅威認識の変遷を探る——アラブ諸国主要紙の計量テキスト
ト分析から」

吉川 卓郎（立命館アジア太平洋大学）、バニ・サラメ ムハンマド（ヤルムーク大学）

“Undermining the Power of Parliament and the People in the Hashemite Kingdom of Jordan? A New
Constitutional Amendment Plan and its Political Impact”

討論 松尾 昌樹（宇都宮大学）
渡邊 駿（一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター）

B-8 アフリカ分科会 責任者 矢澤 達宏（上智大学）

テーマ 自由論題

司会 矢澤 達宏（上智大学）

報告 網中 昭世（アジア経済研究所）

「労働移民の社会的保護をめぐる規範形成と実践——南部アフリカ鉱山労働者をめぐる補
償を中心に」

猪口 絢子（アジア経済研究所）

「『ビジネスと人権』規範の国内実施が抱える課題——アフリカ大湖地域における紛争鉱物
規制の事例から」

徐 博晨（東京大学）

「重債務貧困国救済計画と有償・無償援助の論争——アフリカ被援助国の視点から」

討論 牧野 久美子 (アジア経済研究所)
小川 裕子 (東海大学)
大門 毅 (早稲田大学)

分科会セッションC (14:00~15:30)

C-1 日本外交史分科会II 責任者 中島 琢磨 (九州大学)
テーマ グローバリズムと地域主義——経済をめぐる外交史研究の新地平
司会 村井 良太 (駒澤大学)
報告 前田 亮介 (北海道大学)
「対外膨張過程における帝国金融秩序の再設計——銀行家・軍・イギリス」
吉田 ますみ (三井文庫)
「市場をめぐる政治外交——戦間期の日印英海運問題を題材として」
呉 舒平 (京都大学)
「辛亥革命期の『自由主義的アジア主義』——犬養毅と孫文の経済的日中提携論 (1911年
から1913年まで)」
討論 五百旗頭 薫 (東京大学)
中谷 直司 (帝京大学)

C-2 平和研究分科会I 責任者 二村 まどか (法政大学)
テーマ 紛争下における平和と正義の追求 * 非登壇共著者
司会 二村 まどか (法政大学)
報告 小阪 真也 (同志社大学)
「国際刑事司法と『不処罰の溝』——国際刑事裁判所に関するローマ規程 (ICC 規程) 非
締約国に焦点を当てて」
田中 (坂部) 有佳子 (青山学院大学)、佐桑 健太郎* (青山学院大学)、
陳 兆昱* (青山学院大学)
「国連PKOにおける女性要員と紛争地の暴力：ジェンダー平等推進の検証」
討論 篠田 英朗 (東京外国語大学)
二村 まどか (法政大学)

C-3 ロシア・東欧分科会II 責任者 長谷川 雄之 (防衛研究所)
テーマ ロシア帝国・ソ連邦の政治・外交・安全保障
司会 長谷川 雄之 (防衛研究所)
報告 矢口 啓朗 (岡山大学)
「ウィーン体制におけるロシアの軍事介入」
李 優大 (東京大学)
「NEP期ソ連の利権 (コンセッション) 政策再考」

麻田 雅文 (岩手大学)
「ソ連による日本の分割占領と武装解除計画 (1945年8月) ——新史料からの再検討」
討論 花田 智之 (防衛研究所)
藤本 健太郎 (工学院大学)

C-4 国連研究分科会 責任者 坂根 徹 (法政大学)

テーマ グローバル・ガバナンスにおける国連の再定位——学際的規範研究の最前線

司会 庄司 真理子 (敬愛大学)

報告 奥迫 元 (早稲田大学)

「国際関係論からのグローバル・ガバナンスにおける国連の再定位」

小寺 智史 (西南学院大学)

「グローバル・ガバナンスにおける『法源論』の再検討」

佐藤 滋之 (武庫川女子大学)

「難民保護のグローバル・ガバナンスにおける規範の動揺と再定義」

討論 竹内 雅俊 (東洋学園大学)

C-5 東南アジア／東アジア国際政治史Ⅱ合同分科会

責任者 青木 (岡部) まき (アジア経済研究所)

五十嵐 隆幸 (防衛大学校)

テーマ 国際関係と国内政治の交差

司会 青木 (岡部) まき (アジア経済研究所)

報告 森 巧 (一橋大学)

「中華民国の地域外交と断交 (1966-1975)」

林 昶延 (岡山大学)

「韓国政治における制度化過程と安定した民主主義の成立——朴正熙政権から全斗煥政権を中心として」

渡辺 理子 (早稲田大学)

「ASEANの『ミャンマー問題』対応——30年にわたる関与から」

討論 青木 (岡部) まき (アジア経済研究所)

大澤 傑 (愛知学院大学)

鈴木 早苗 (東京大学)

C-6 国際政治経済分科会Ⅰ 責任者 西谷 真規子 (神戸大学)

テーマ 欧州ガバナンスの変容とグローバル・ガバナンス

司会 都留 康子 (上智大学)

報告 山田 哲也 (南山大学)

「国際河川委員会の経験とグローバル・ガバナンス」

塚田 鉄也 (桃山大学)

「家族呼び寄せ政策のヨーロッパ化」

討論 都留 康子（上智大学）
 臼井 陽一郎（新潟国際情報大学）
C-7 国際統合分科会 責任者 小林 正英（尚美学園大学）
 テーマ 統合と周縁
 司会 小林 正英（尚美学園大学）
 報告 廣瀬 方美（津田塾大学）
 「EUの安全保障と紛争防止概念——スウェーデンの視点より」
 小窪 千早（静岡県立大学）
 「フランス外交と欧州の安全保障——自立の模索と地域秩序の観点から」
 討論 広瀬 佳一（防衛大学校）
 小林 正英（尚美学園大学）

C-8 理論と方法分科会 I 責任者 松村 尚子（神戸大学）
 テーマ 国際関係論における実験的手法
 司会 松村 尚子（神戸大学）
 報告 伊藤 岳（大阪公立大学）
 “On the Political Legacies of Herbicidal Warfare”
 大槻 一統（東京都立大学）
 “Political Institutions and Nuclear Deterrence: Theory and Experiment”
 籠谷 公司（大阪経済大学）
 「外交的非難のジレンマを解決できるのか」
 討論 前川 和歌子（名古屋商科大学）

◆10月30日（日）

分科会セッションD（9:30～11:00）

D-1 日本外交史分科会Ⅲ 責任者 中島 琢磨（九州大学）
 テーマ 安保と沖縄——講和条約発効70年に考える
 司会 中島 琢磨（九州大学）
 報告 池宮城 陽子（東京工業大学）
 「講和後の沖縄をめぐる日本外交、1953～1955年」
 鍛冶 一郎（東京大学）
 「重光葵外相の安保改定構想の検討」
 真栄城 拓也（大阪大学）
 「仲吉良光の日本復帰運動の再考——『復帰男』が沖縄返還に果たした役割とは何だったのか」
 討論 河野 康子（法政大学）

櫻澤 誠 (大阪教育大学)

D-2 理論と方法分科会Ⅱ

責任者 松村 尚子 (神戸大学)

テーマ 量的テキスト分析

* 非登壇共著者

司会 大林 一広 (一橋大学)

報告 于 海春 (早稲田大学)、周 源* (神戸大学)

「中国国内におけるウクライナ侵攻をめぐる世論形成——Weibo 上における中国語書き込みの計量テキスト分析から」

渡辺 綾 (アジア経済研究所)

“Conflict Dynamics and Domestic Politics: Legislative Deliberation on the Mindanao Conflict in the Philippines”

討論 阪本 拓人 (東京大学)

D-3 東アジア国際政治史分科会Ⅲ

責任者 五十嵐 隆幸 (防衛大学校)

テーマ 第三次台湾海峡危機の再検討——日米同盟と台湾関係法への影響

司会 五十嵐 隆幸 (防衛大学校)

報告 福田 円 (法政大学)

「台湾海峡危機後の米台安全保障関係と日本——1995-2000年」

寺岡 亜由美 (テキサス大学、海外非会員)

「90年代の日米同盟強化プロセスにおける台湾ファクター」

討論 吉田 真吾 (近畿大学)

五十嵐 隆幸 (防衛大学校)

D-4 トランスナショナル分科会

責任者 西脇 靖洋 (静岡文化芸術大学)

テーマ 自由論題

司会 西脇 靖洋 (静岡文化芸術大学)

報告 芝井 清久 (ROIS-DS)

「核問題における日本・広島長崎・米国の世論のデータ分析——核軍縮、核抑止、IAEA 査察」

富田 晃正 (埼玉大学)

「グローバル化への抵抗と順応——日本の繊維産業を事例に」

植村 充 (東京大学)

「欧州難民危機再び?——ウクライナ大量避難民受入れと2015年難民危機の比較検討」

討論 藤田 泰昌 (長崎大学)

錦田 愛子 (慶應義塾大学)

D-5 院生・若手研究分科会Ⅲ

責任者 細川 真由 (京都大学)

テーマ 「リベラル」な国際秩序をめぐる多角的分析

- 司会 中村 長史 (東京大学)
- 報告 向田 公輝 (京都大学)
- 「インド外交と『自由で開かれたインド太平洋戦略』——ナレンドラ・モーディー政権下のインド独自外交」
- 李 天寵 (青山学院大学)
- 「ポストコロナ時代における国際秩序の変容——自由主義国際秩序の変化」
- 討論 井上 あえか (就実大学)
- 市原 麻衣子 (一橋大学)

分科会セッションE (11:15~12:55)

E-1 日本外交史分科会IV 責任者 中島 琢磨 (九州大学)

テーマ 戦後日本外交の重要論点——再軍備問題・東南アジア・対ソ外交

司会 福永 文夫 (獨協大学)

報告 藤田 吾郎 (一橋大学)

「社会秩序維持手段としての日本再軍備——芦田均を中心に」

中西 友汰 (同志社大学)

「佐藤栄作の1967年アジア大洋州諸国歴訪と訪米」

横山 雄大 (東京大学)

「佐藤栄作政権の対ソ外交——1972年グルムイコ訪日への対応から」

討論 中島 信吾 (防衛研究所)

昇 亜美子 (慶應義塾大学)

E-2 欧州国際政治史・欧州研究分科会II 責任者 小川 浩之 (東京大学)

テーマ 欧州研究における歴史的・空間的視座の拡大

司会 川村 陶子 (成蹊大学)

報告 八代 憲彦 (東京大学)

「イギリス労働党政権の外交政策とポーランド社会党の関係、1946-48」

根岸 董 (早稲田大学)

「ドイツ移民法の成立とヨーロッパ化」

討論 池田 亮 (東北大学)

板橋 拓己 (東京大学)

E-3 ラテンアメリカ分科会 責任者 山岡 加奈子 (アジア経済研究所)

テーマ 2030アジェンダ (SDGs) 実現に向けて——ラテンアメリカと日本

司会 二村 久則 (名古屋大学)

報告 堀坂 浩太郎 (ラテンアメリカ協会ラテンアメリカ・カリブ研究所)

「冷戦の終焉と残滓、新たな協調と対立が交錯する中での二国間関係——台湾ロシア関係
および韓国ロシア関係を事例として」

三浦 秀之 (杏林大学)、浦田 秀次郎* (早稲田大学、非会員)

「デジタル貿易をめぐる多国間および地域におけるルール形成」

討論 土屋 大洋 (慶應義塾大学)

金 ゼンマ (明治大学)

2. 和文学機関誌『国際政治』208号～210号掲載論文

『国際政治』208号

蟹江憲史「序論 SDGs とグローバル・ガバナンス」

前田幸男「ノン・ヒューマンの政治理論からの『持続可能な開発目標』の再構成」

御代田有希「ESG投資を通じた機関投資家のSDGsへの貢献」

片柳真理「ビジネスの平和への貢献」

真島啓「人身取引と女性の安全保障からみる買春問題、およびスウェーデンの買春禁止法の影
響と課題」

内記香子「持続可能な都市開発に関する規範の発展過程」

高尾珠樹「地球環境問題協議枠組み間の連携促進にSDGsがもたらす効果」

林明仁「SDGs時代の開発NGO」

小南有紀「危機のなかの駐米大使」

西村もも子「グローバル化と投資協定」

西川太郎「欧州議会へのロビイング」

<書評論文>

藤巻裕之「兵器の自律化と国際政治」

中野裕二「フランス共和国にとって市民とは何か」

<書評>

ロメロ・イサミ、三牧聖子、網谷龍介

『国際政治』209号

黒崎輝「序論 冷戦と日本外交」

神田豊隆「日本社会党の講和論争とコミスコ・社会主義インターナショナル」

岡田美保「日ソ国交回復交渉」

田中慎吾「日英原子力一般協約（一九五八年）」

柴田茂紀「日本のOECD加盟とドル防衛問題」

元山仁士郎「米中接近における沖縄ファクターの検討」

八代拓「一九七四年東南アジア反日暴動の再検討」

石本凌也「米ソ戦略兵器制限交渉をめぐる日本外交 一九七二—一九七九年」

李秉哲「新冷戦期における朝鮮半島問題と日本の対応」

水野良哉「『米英連邦』の模索」

<p><書評論文></p> <p>山崎望「徘徊するシュミットとマルクスの亡霊」</p> <p>溝口修平「ロシアを束ねるものは何か？」</p> <p><書評></p> <p>玉置敦彦、中谷純江、湯川勇人</p>
『国際政治』210号
<p>杉木明子「序章 二一世紀アフリカにおける国家と国際関係」</p> <p>落合雄彦「リベリアにおける「マンディンゴ問題」の史的変容」</p> <p>戸田真紀子「紛争を再生産する国家、植民地化の遺産、新植民地主義」</p> <p>山田真弓「岐路に立つ南スーダン共和国」</p> <p>遠藤貢「アフリカにおける政治体制変動の評価をめぐって」</p> <p>藤井広重「国際刑事裁判所による司法介入とケニアの司法制度改革」</p> <p>小林綾子「紛争再発と和平合意」</p> <p>上野友也「文民の保護における限界と無限」</p> <p>渡辺紫乃「中国アフリカ関係の新展開」</p> <p>牧野久美子「日本における反アパルトヘイト国際連帯運動」</p> <p>崔 智喜「中曽根政権期の対北朝鮮外交に関する研究」</p>
<p><書評論文></p> <p>中山裕美「難民・移民に対する国際的な協力体制の再興に向けて」</p> <p><書評></p> <p>家永真幸、須田祐子</p>

3. 英文機関紙 *International Relations of Asia-Pacific* Vol.22, No.2, No.3, Vol.23, No.1 掲載論文

<i>International Relations of the Asia-Pacific</i> , Vol.22, No.2
<p>Guangyu Qiao-Franco, "The 'ASEANization' of non-ASEAN stakeholders in regional climate change cooperation"</p> <p>David Martin Jones, Nicole Jenne, "Hedging and grand strategy in Southeast Asian foreign policy"</p> <p>Oana Burcu, "The Chinese government's management of anti-Japan nationalism during Hu-Wen era"</p> <p>Michal Kolmaš, "Why is Japan shamed for whaling more than Norway? International Society and its barbaric others"</p> <p>Nitasha Kaul, "Beyond India and China: Bhutan as a Small State in International Relations"</p> <p>BOOK REVIEWS</p>
<i>International Relations of the Asia-Pacific</i> , Vol.22, No.3

Inho Choi, "Chinese' hegemony from a Korean shi perspective: aretocracy in the early modern East Asia"

Ang Guan Teo, Kei Koga, "Conceptualizing equidistant diplomacy in international relations: the case of Singapore"

Andrew Rosser, "Diaspora organizations, political settlements, and the migration-development nexus: the case of the Indonesian Diaspora Network"

Yuichi Sasaki, "Reception and practice of diplomacy in modern Japan: power, interests, and norms"

Katharin Tai, Yuan Yi Zhu, "A historical explanation of Chinese cybersovereignty"

Chia-Chou Wang, "Do cross-polity contacts change policy preferences? Using the attitudes of Taiwanese student delegations visiting Mainland China towards unification-independence as an example"

BOOK REVIEW

CORRIGENDUM

International Relations of the Asia-Pacific, Vol.23, No.1

Chih-Yu Shih, "Strategizing Femininity between the Global and the Taiwanese Local: Implications for International Relations"

Denghua Zhang, "China's motives, influence and prospects in Pacific Island countries: views of Chinese scholars"

Jingkai Shao, "Territorial dispute at home: strategic narratives contestation over the Diaoyu/Senkaku Islands nationalization policy in Japan"

Thomas Wilkins, "Middle power hedging in the era of security/economic disconnect: Australia, Japan, and the 'Special Strategic Partnership'"

RESEARCH NOTES

BOOK REVIEWS